資料３　「言葉の検査」筑波大学附属聴覚特別支援学校幼稚部実践研究

添付１　言葉の検査【実施の手引き】

［資料　言葉の検査］

実施時期［第一回　第二回］（○をつける）

言葉の検査【実施の手引き】

・数の記憶（注１）
・ことばの復唱（単語、文）
・ことばの理解（注２）
・聞いて理解
・絵を見てお話
・読んで理解

（注１，２）言語学習能力診断検査手引き ITPA（1993 改訂版）を使用

［　　］年　［　　］組

幼児名［　　］

※実施日、検査名、記録者名、幼児名は、各記録用紙に記載する。
　（検査は担任、記録は学年付き教員が担当する）
※幼児の回答は IC レコーダーに録音する。
　冒頭に幼児名、実施日、検査名、検査者名を録音する。
※検査は、数回に分けて実施しても可。なるべく２週間以内に実施する。

添付 2　言葉の検査（ことばの復唱・単語）

ことばの復唱（単語）　練習　ねこ

ﾌﾞﾛｯｸ			第 1 試行	第 2 試行
Ⅰ	1	はな		
	2	いぬ		
	3	つぼ		
Ⅱ	4	おふろ		
	5	かえる		
	6	よそみ		
Ⅲ	7	おむすび		
	8	なわとび		
	9	かしつき		
Ⅳ	10	ゆきだるま		
	11	しもばしら		
	12	どろまみれ		

検査時の様子：

【注意事項】
・音韻サインや身振りはつけず、音声のみで教示する。
・口元をよく見るように促し実施する。ただし、見るように促しても耳だけで聞いている場合は、検査時の様子の欄に記入する。

【教示法及び手続き】
・すべての子供に練習項目を行う。

（練習）　先生の言うことをよく聞いて、同じように言ってね（真似してね）。「ねこ」

・言葉を教示するときは、普通の語調で明瞭に発音する。
・練習を正しく復唱できなかった場合には、もう一度読んで復唱させ、やり方を十分理解させる。
・正しく復唱できなくても訂正したり、正しい答えを教えたりしない。
・第 1 試行で正答した場合、第 2 試行は行わず、次の問題に進む。
・第 1 試行が正答できなかった場合、第 2 試行を行う。第 2 試行でも正答できなかった場合は、その問題は終了し、次へ進む。
・発音が不明瞭であっても音節数と後続母音が合っていれば正答とする。どちらかひとつでも合っていなければ誤答とする。例）［おふろ］　おうお○　おろ×
［おむすび］　おむうび○　おおび×　おむーび○
［ゆきだるま］ゆきあうま○ ういまうま○ ゆきだあま× うきだま×
・教師が、言い終わっても子供がまだ続くのかと思って待っているようなことがあったら、「はい」と言って復唱を促す。

【下限】
・すべての子供でⅠ→Ⅱ→Ⅲと順番に進む。

【上限】
・ブロック内のすべての問題で 1 試行、2 試行の両方とも間違ったら検査は終わり、次のステップには進まない。

【記録】
・発音は、聞こえたとおりそのまま記録する。子供の発話は IC レコーダーに録音する。
・曖昧な場合は、第 2 試行まで行う。ただし、検査後の採点で第 1 試行ができていれば 2 点とする。

添付 3　言葉の検査（ことばの復唱・文）

ことばの復唱（文）

ﾌﾞﾛｯｸ	番号	文	試行数	
Ⅰ	1	おかあさんが　ばななを　たべた。	第 1 試行	第 2 試行
	2	おとうさんと　おふろに　はいる。	第 1 試行	第 2 試行
	3	えきの　かいだんを　のぼる。	第 1 試行	第 2 試行
Ⅱ	4	あかちゃんが　おおきな　こえで　なく。	第 1 試行	第 2 試行
	5	あしたは　あさから　ゆきが　ふる。	第 1 試行	第 2 試行
	6	みどりの　ぼうしが　かわに　おちた。	第 1 試行	第 2 試行
Ⅲ	7	にちようび　おとうさんと　くるまで　うみに　いった。	第 1 試行	第 2 試行
	8	たんじょうびの　プレゼントに　ひこうきの　おもちゃが　ほしい。	第 1 試行	第 2 試行
	9	でんしゃの　まどから　たかい　やまが　みえた。	第 1 試行	第 2 試行

検査時の様子：

・音韻サインはつけない。
・口元をよく見るように促してから実施する。ただし、見るように促しても耳だけで聞いている場合は検査時の様子の欄に記入する。

【教示法】
・練習はなし。
・文を読むときは、普通の語調で明瞭に発音する。
・子供が正しく復唱できなくても訂正したり、正しい答えを教えたりしない。
・第 1 試行で正答した場合、第 2 試行は行わず、次の問題に進む。
・第 1 試行が正答できなかった場合、第 2 試行を行う。第 2 試行でも正答できなかった場合は、その問題は終了し次へ進む。
・言い終わっても子供がまだ続くのかと思って待っているようなことがあったら「はい」と言って復唱を促す。
・子供が、途中で「えっ」「何？」、「もう一回」と言っても、教示者は中断せず最後まで言い終わってからもう一度最初から文を読む。
【下限】すべての子供でⅠ→Ⅱ→Ⅲと順番に進む。
【上限】ブロック内のすべての問題で第 1 試行、第 2 試行の両方を間違ったら終了し、次のステップには進まない。
【記録】
・発音は、聞こえたとおりそのまま記録する。
誤りの傾向がつかめるように、下記の例にならって記録する。
・曖昧な場合は、第 2 試行まで行う。ただし、検査後の採点で第 1 試行ができていれば 2 点とする。
・子供の発話は IC レコーダーに録音する。
その場で確認できなかった部分は録音を参考にする。
・助詞や文節が抜けている場合は、誤答とする。発音が不明瞭であっても、音節数と後続母音が合っていれば正答とする。どちらかひとつでも合っていなければ誤答とする。

【記録の例】　・えきに　あいだんを　のぼった。
　　・おたんじょうびの　プレゼントに　おおきい　ういうーみが　ほしい。

添付 4　言葉の検査（聞いて理解）

聞いて理解

○課題 1

【進め方】

・始めに（絵を裏返した状態で）

「ここに、絵が書いてあるよ。あとで先生がお話をするね。じゃあ、よく見てね。」
と言って、絵を表にして机に置き 10 秒間見せる。

・次に、

「今から先生がお話するよ。よく聞いてね。」と言って提示文を読む。

【提示文】「まおちゃんは、おにいちゃんと一緒に家の近くの公園に行ったよ。
おにいちゃんは、鉄棒で遊んだよ。
まおちゃんは、すべりだいを何回もすべって遊んだよ。」

【問題文①】 **先生が、きくよ。絵を見て、どれか教えてね。**
「おにいちゃんは、何で遊んだの。」と聞いた後、絵を見せて答えさせる。
子供が答えたら**「そう」**と言って次の問題に進む。

【問題文②】 絵は置いたまま、検査者の顔を向かせ、
もう一つ聞くよ。どれか教えてね。
「まおちゃんは、何で遊んだの。」と聞く。
子供が答えたら**「そう」**と言って次の問題に進む。

【注意事項】

・文を読むときは、普通の語調で明瞭に発音する。

・子供が「もう一回言って」、「えっ」など、聞き返したら、最後まで言い終わってから、「もう一回お話するからよく聞いてね」と言って、最初から最後まで文を読む。
ただし、文を読むのは 2 回までとする。

・答え方は、指さしでも音声でもよい。

【記録】

○教師が読んだ回数に○を付ける。（1 回、2 回）

○指さしたり、音声で答えたりしたもの全てに○を付ける。

問題文①

すべり台	鉄棒	砂場
ブランコ	ｼﾞｬﾝｸﾞﾙｼﾞﾑ	うんてい

問題文②

すべり台	鉄棒	砂場
ブランコ	ｼﾞｬﾝｸﾞﾙｼﾞﾑ	うんてい

【採点】問題文①、②それぞれで採点する。
問題文を 1 回聞いて正しく回答したときのみ 5 点を与える。
問題文を 2 回聞いて正しく回答したときのみ 3 点を与える。
正しく回答した時のみ点を与え、他は点を与えない。

【提示する絵】

添付４　言葉の検査（聞いて理解）

○課題２

【進め方】

・同じように進める。

・（絵を裏返した状態で）

「次の問題だよ、絵を見せるよ。よく見てね。」と言って、絵を表にして机に置き10秒間見せる。

・次に、

「じゃあ、先生がお話するよ。よく聞いてね。」と言って提示文を読む。

【提示文】「こうたろう君は、お母さんと一緒に買物に行きました。
お肉は買わないで、じゃがいもとタマネギを買いました。
それから、りんごジュースを買いました。」

【問題文③】先生がきくよ。絵を見て、どれか教えてね。
「こうたろう君は、何を買ったの？」と聞いた後、絵を見せて答えさせる。
子供答えたら、「そう」といい、検査の終了を伝える。

【注意事項】

聞いて理解①と同じ

【記録】

○教師が読んだ回数に○を付ける。（1回、2回）

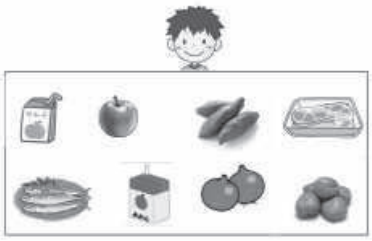
○指さしたり、音声で答えたりしたもの全てに○を付ける。

りんご ジュース	りんご	さつまいも	肉
魚	みかん ジュース	タマネギ	じゃがいも

【採点】

問題文③を１回読んで回答　→3つとも正しい時のみ５点を与える。
問題文③を２回聞いて回答　→3つとも正しい時のみ３点を与える。
正しく回答した時のみ点を与え、他は点を与えない。

【提示する絵】



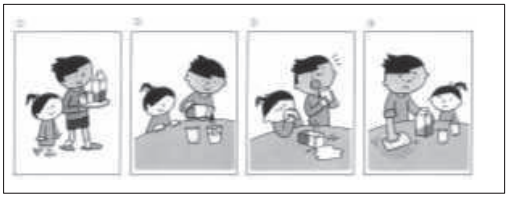
添付 5　言葉の検査（絵を見てお話）

絵を見てお話

【使用する絵】

① 泣いている絵（1 枚）

② 牛乳の絵（4 枚続き）



③ 砂場の絵（4 枚続き）

出典：①　　こぐま会「ひとりでとっくん 13　おはなしづくり 1」
②、③　幻冬舎×こぐま会「おはなしづくり絵カード」

【教示及び進め方】

・絵を見てね。どんなおはなしかな（どうしたのかな）。いっぱいおはなししてね。
・子供の話については、「うんうん」「そう」「ふうん」等、相づちを打つ程度にする。否定や賞賛、指導はしない。
・話が止まったときには、「それで？」と話を促す。
　「それで？」の促しは、①については 3 回まで、②③についても 4 枚全体を通し 3 回までとする。
　「誰が～？」「どこに～？」等の具体的な質問はしない。
　「だから？」「でも？」等、話を誘導する質問はしない。
　話の順番が、絵の順番と異なっていても指導はしない。
・促しても出てこなかったら、「おしまい？（おわり？）」と確認し終了とする。その後話が出てきたら続けて話させ、止まったところで終了とする。
・①→②→③の順番に行う。

【記録】

・子供の話をできるだけ忠実に記録する。構文の誤りもそのまま記録する。
・発音が曖昧で言葉が判別しにくい場合は、なるべく聞こえたとおりに記録しておく。
・IC レコーダーで録音する。聞き取れなかった部分について、確認する。
※後日、記録を元に分析する。（構文の誤り、語彙数、接続詞の使用、一文の長さ等の詳細は記録を見てから分析する。）

添付 6　言葉の検査【読んで理解】

読んで理解

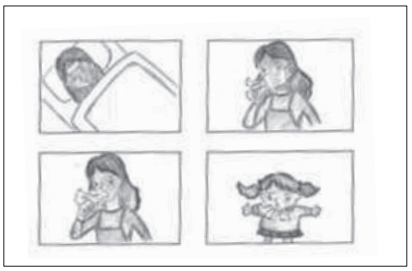
普段の様子から、文字が読めない幼児、「一文」課題に出てくる単語が表出語になっていない幼児には実施しない。実施しない場合はその理由を記録しておく。

【教示及び進め方】

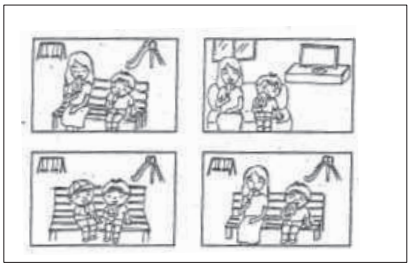
・（文カードを提示する）**「文（おはなし）を読んでね。」**
　読みの状態をつかむため音読させる。記録者は子供が話したとおりに記録する。読み方や発音等の指導はしない。
・（子供が文を読み終わってから絵を提示する。文は提示したままでよい）
　「どの絵のおはなしかな。指差してね。」
・子供が指差した絵の位置に○をつける（記録用紙に）。
・①②③④⑤の順番に行う。（①～③は一文課題　　④⑤は三文課題）

〈一文〉
① くまが　ぶらんこに　のってる。
② おんなのこが　いぬを　おいかけてる。
③ まるの　なかに　さんかくが　ある。

〈三文〉
④ おかあさんが　かぜ　をひいた。
　せきが　たくさん　でてる。
　でも　ますくは　してない。



⑤ おかあさんと　こうえんに　いった。
　ふたりで　あいすを　たべた。
　ぼくの　あいすのほうが　おおきかった。



※実際の文カードは縦書き

添付７　発音明瞭度（評価）方法

［資料　発音明瞭度検査（評価）方法］

1．ねらい

単音での発音の実態を把握する。（→発音の実態を知り、それをもとに発音指導の方針を立てる。）

2．評価対象音

直音（清音、濁音、半濁音）　67 音節＋「ン」

（可能な場合は、拗音を加えた 100 音節＋「ン」を行ってもよい）

3．方法

検査者：担任

評価者：隣接学級担任と学年付き教員の計２名。検査時、同席して評価する。

（1）検査者は子供に検査カードを一枚見せ、読ませる。

指示の例「カードの文字を読んでね」「先生のあとに読んでね」

T：「1 番」　→C：「ウ」　→T：「2 番」→C：「カ」→…

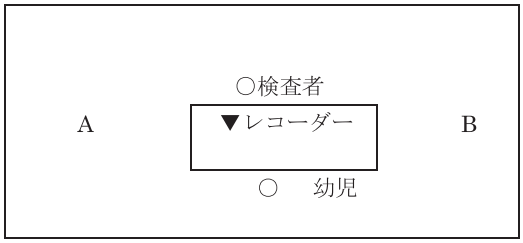
（2）IC レコーダーに録音しておく。

（3）この方法にのれない子供の場合は、担任が普段の観察から評価した状態を評価し、整理用紙に記入する。また、その旨を明記する。

［評価の仕方］

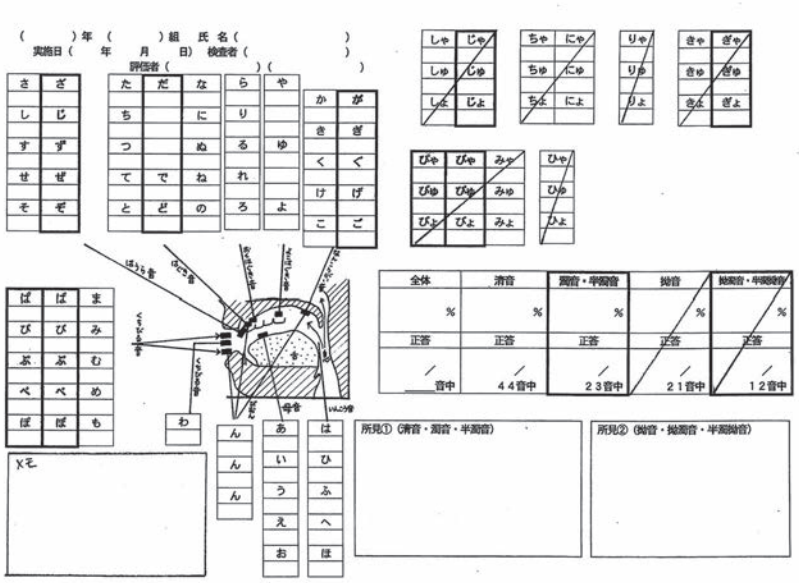
・評価者は、子供の発音を聞こえたとおりに評価用紙に記入する。カードは見ない。
聞き逃しがあった場合は、終了後、その音についてのみレコーダーを聞いて評価して良い。ただし、聞くのは一回のみとする。

・評価終了後、２名分の評価用紙を集め、評価整理用紙に整理する。（学年付き教員）
２名とも検査音通りに評価していた場合は◎をつける。
１名のみの場合は、○と、もう１名が評価した通りに転記する。
２名とも検査音外に評価していた場合は、それぞれの評価通りに転記する。



・評価者の位置は、A又はB。
・幼児の発音が聞きやすく、また幼児に威圧感を与えない位置で評価する。
・幼児の口元から1.5メートル程度の距離をとる。

＊「ン」の評価：○の場合は両唇音かその他か分かるように記入しておく。

両唇音の場合「m」　その他の場合「他」（分かれば ŋ、N 等を記入）

４．評価整理用紙